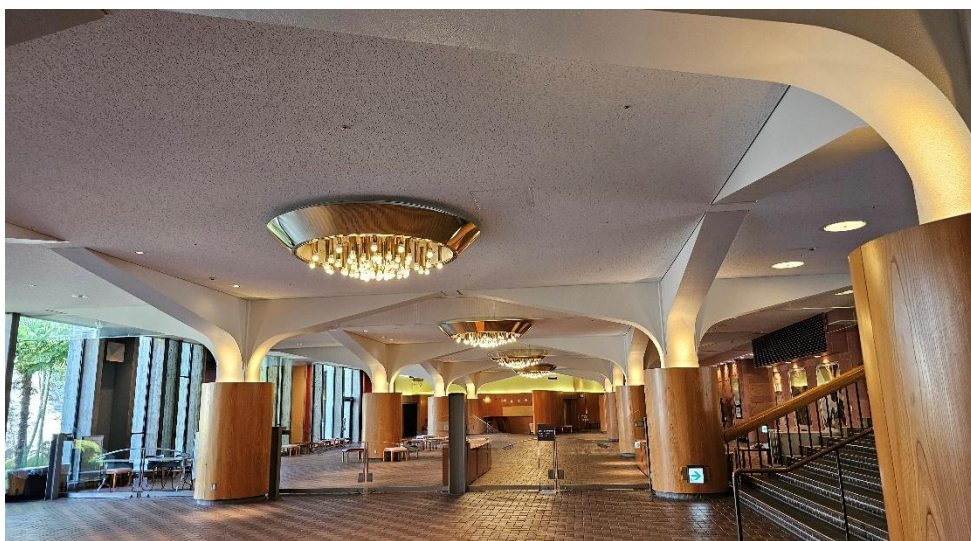
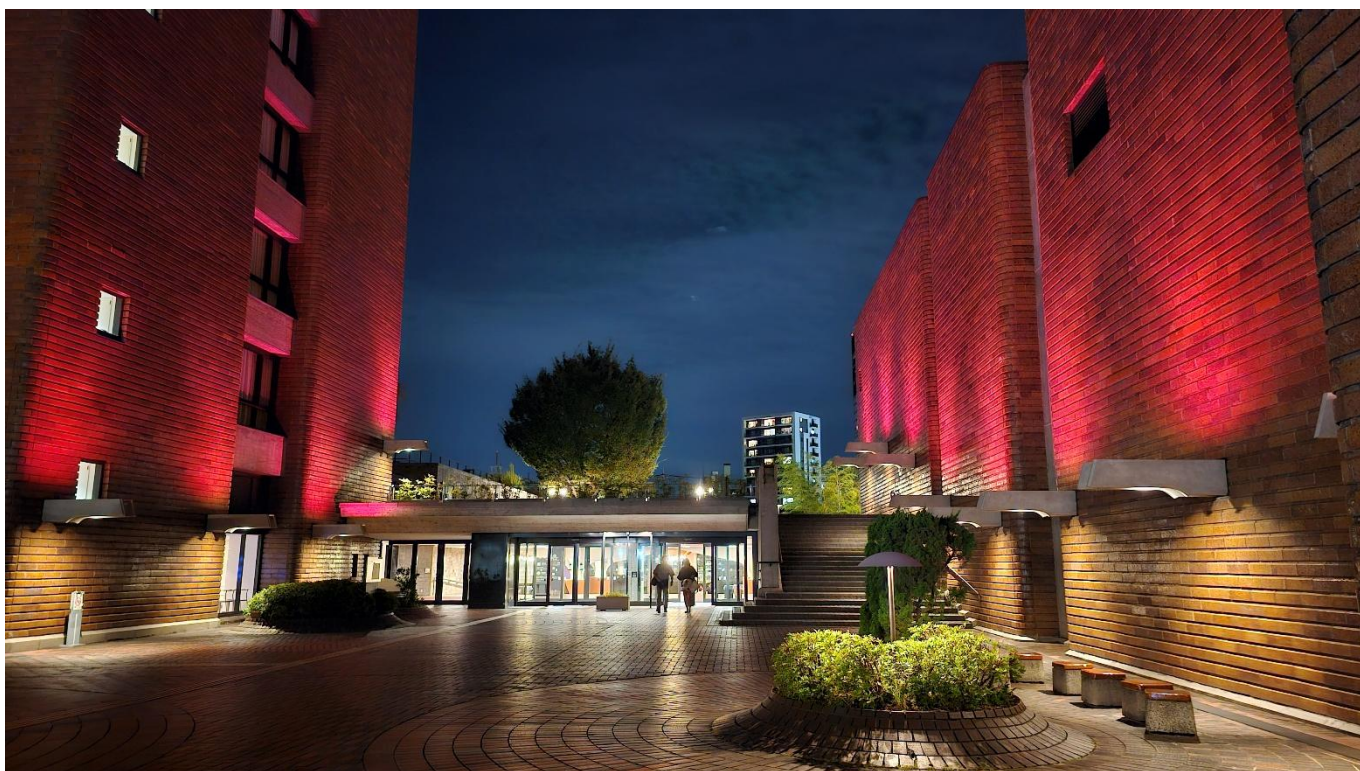


ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo **654**

2026.10



2026 年 10 月 1 日 (毎月発行) 定価 200 円 654 号通巻第 654 号第 56 巻第 10 号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人/杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町 361 番地 誠志堂ビル 3 階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- 03 「建築とまちづくりセミナーin 埼玉」報告 No.1 山下千佳
 06 データセンターあり方研究会・公開市民フォーラム 柳澤泰博
 07 「第18回地方自治研究全国集会 in 広島」の報告 千代崎一夫
 09 アジアンニュース No.45 TN
 11 「東日本大震災から歩んだ、あおい地区の復興と現在」公開勉強会

今月の表紙 提供：山下千佳

建まちセミナーin 埼玉が行なわれた前川國男の設計による「埼玉会館」2026年は現在の建物が完成してから60年、初代の埼玉会館の開館からは100年です。

懇親会終了後、赤くライトアップされたレンガ造りの建物が幻想的でした。



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！

foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎10/16 金 19:00 第六回「新建・みんなの知恵袋」 @新建事務所
 ◎10/19 月 18:30 第2回 東京支部幹事会 @新建事務所
 ◎11/12 木 16:00 東京問題研究会 @新建事務所

全国

- ◎10/17 土 18:30 マンションサポート研究会 第13回公開講座 @ZOOM
 ■ <https://nu-ae.com/261017mansion-koza/>
 ◎10/29 金-31 土 復興支援会議ブロック会議-能登半島視察
 ◎11/05 木 東松島市あおい地区 自治会長の小野さん講演 一木会+復興支援会議



会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆10/24 土-25 日 全国災対連 全国交流集会 in 新潟
 ◆11/07 土 10:00-16:30 週末防災ひろば SETAGAYA BOSAI PARK 世田谷区役所新庁舎（井上）

第六回 新建東京サロン みんなの知恵袋 日時：10月16日（金）19:00～場所：新建事務所

「私の暮らし、こんな感じです。～シェアハウスでの5年間～」武市 望奈代（象地域設計）

学生時代と今、2つのシェアハウスで気づけば5年暮らしていました。

地方×学生の賑やかさと、都心×社会人の洗練味を感じる2つは違うようで似ているような... そんな私の日常を紹介します。

お申し込みは東京支部ホームページから

<https://nu-ae.com/tokyo/shinken-saron/>

ZOOM 参加の方には、自動返信で URL が届きます。



「建築とまちづくりセミナーin 埼玉」報告 No.1 山下千佳

10月3日・4日「建築とまちづくりセミナーin 埼玉」が埼玉会館で開催され、86名の参加がありました。東京支部会員は22名、会員以外の東京支部関係の方は9名と30名を超す参加で、セミナーに貢献しました。

今回のセミナーは、「埼玉から愛を込めて『建築とまち』の歴史と未来を考える」をテーマに、埼玉各地で取り組まれている市民参加のまちづくり、歴史的建築物や産業遺産の保存・活用、文化を核としたまちづくり、行政と市民・民間との協働、そして再開発の課題まで、幅広いテーマを学びました。

会場となった埼玉会館は、前川國男設計による歴史的な建築です。「埼玉会館が会場ということでテンションが上がった」「良い雰囲気の中でセミナーが行われ、参加してよかった」との声が聞かれ、建築そのものの魅力を感じながら学ぶ2日間となりました。

開会のあいさつは、全国代表幹事の乾康代さん、総合司会は室岡正嗣さん、主旨説明と講師紹介は古里実さん、閉会のあいさつは全国幹事会議長の片井克美さんが行ないました。



市民がまちを知り、愛着を育てる

第一講座は、三浦匡史さんによる「参加型で進めた『さいたま百景』の選定と書籍づくり」。

さいたま市の合併を契機に始まった「さいたま百景」の取り組みでは、市民が自分の好きな場所、気になる風景を持ち寄り、その理由を考え、実際にまちを歩きながら地域への理解を深めてきました。



単に「きれいな風景」を選ぶのではなく、地形や歴史、現在の暮らし、市民による保存活動など、地域の生活や文化を含めて評価していることが特徴です。約456件の応募をもとに選定された「さいたま百景」は、その後、散策マップや書籍へと発展し、2025年には、変化した風景や失われたものにも目を向けながら、未来へ引き継ぐ「明日に引き継ぐ さいたま百景」としてまとめられました。

市民が自ら好きなところや気になるところを選び、その理由を考えることで、まちへの関心と愛着が育つことでまちが変わって行くことがわかりました。

「絹の道」がつないだ川越と世界

第二講座「埼玉の『絹の道』をめぐる一産業革命がつなぐ英国と川越」は、藤井美登利さんが体調のため参加できず、藤井さんと一緒に活動されている鎌原史英さんが、藤井さんのプレゼンテーションと資料、「建築とまちづくり」誌6月号を使って報告しました。



川越唐棧を通して、江戸・明治期の川越とイギリスの産業革命とのつながりをたどりました。川越唐棧に使われた細い綿糸は、マンチェスター周辺で生産され、リバプールから日本へ運ばれた英国産のものでした。川越の商人・中島久平が横浜で英国産の綿糸に着目し、川越周辺で織らせたことから、川越唐棧の発展につながっていきます。その背景には、産業革命による綿工業の発展だけでなく、奴隷貿易を含む「三角

貿易」という歴史の光と影もありました。さらに、英国の紡績機械メーカー・プラット社と日本の近代化との関係など、川越のまちなみを世界の産業史の中で捉える興味深い内容でした。

また、マンション開発によって取り壊される危機にあった旧川越織物市場を、市民、地域、専門家、報道関係者などが保存運動を展開し、保存・活用につなげた経緯も紹介されました。

私は 2018 年にマンチェスターとリバプールに行ったので、藤井美登利さんから話を伺った後で、交流がしたかったです。

地域に根を下ろす設計者の仕事

第三講座は、朽木宏さんによる「ぎょうだ足袋蔵ネットワークの取り組み」。

行田に残る足袋蔵などの歴史的建築物と、足袋産業をはじめとする地域の文化・産業に光を当て、まず一つの建物から始めた活動を、地域の人々とのつながりをつくりながら、面的なまちづくりへと広げていった取り組みです。行田の文化的に価値のある建物と産業に光を当てた取り組みに感銘を受けました。

また、事務所にカフェを併設し、人が会話を楽しめる場をつくるなど、「あるべきまちの姿」を思い描きながら実践する姿勢にも注目が集まりました。



映画館を核にした「市民活劇」

第四講座は、小林真さんによる「21 世紀映画のまち＝深谷シネマ『市民活劇』の四半世紀」。

深谷シネマを中心に、自主映画や映画文化を支えながら、市民が集い、交流する場をつくってきた四半世紀の活動が紹介されました。映画館という文化施設を単独で考えるのではなく、そこから生まれる人のつながりや、新しい空間、まちの活動へと広がっていく「市民活劇」の歩みです。

自主映画をサポートする力、そこから生まれる面白い空間や人間関係、文化に触れる場所づくりと、それを維持することが大事なことだと思いました。



「ほしい暮らしは私たちでつくる」

第五講座は、草加市職員の高橋浩志郎さんによる「『ほしい暮らしは私たちでつくる』～脱再開発の公民連携まちづくりの現場から」。

民間企業での経験を経て自治体職員となった高橋さんが、産業振興や「顔の見える経済循環」から始め、リノベーションまちづくり、健康・福祉など、行政と民間、市民が連携する取り組みを広げてきた実践が紹介されました。

「行政をビジネスとして捉えると、何が無駄で何が持続可能なのかが見えてくる」「そこに住む人がまちを育てる仕組みづくりを追求したい」といった参加者の感想からも、行政の役割と地域の主体性について、多くの刺激を受けたことがうかがえました。人口減少の中で、私たちが立ち返るまちのあり方、人とのつながり垣間見ることができました。顔の見える関係が、息の長い関係をつくるのかということにも気づきました。高橋さんのような自治体職員の方が、各地域にもっと増えて欲しいです。



浦和の建築とまち、そして再開発を考える

二日目の第六講座では、古里実さんが「浦和の『建築とまち』の魅力と課題」を報告しました。

中浦和、浦和、北浦和、西浦和、武蔵浦和などを実際に歩き、ヒアシンズハウスや埼玉会館などの魅力ある建築、商店街や住宅地、地域の居場所などを確認するとともに、武蔵浦和駅周辺に集中するタワーマンション群と再開発の課題について考えました。

特に、マンションについて、長期修繕だけでなく、将来の建替え・解体まで視野に入れた「出口戦略」を考える必要性が提起されました。

第七講座は、岩見良太郎さんによる「再開発の仕組みと課題」。

再開発の仕組み、容積率緩和、補助金、保留床、ディベロッパーの利益構造などを具体的に検討し、「誰のため、何のための再開発なのか」という根本的な問いを投げかけました。住宅や地域コミュニティが失われる一方で、公共の補助によって事業が成立していく構造についても考えました。

再開発制度の問題点が明確になり、補助金なしにはディベロッパーがもうからないことに、身の丈に合った再開発、まちの未来の姿とは何なのかを考えさせられました。



懇親会は、参加者同士が交流を深める貴重な機会となりました。特に講師の方、エクスカーションの案内をしてくださる方がほとんど参加してくださり、名刺交換をしたりお話をしたりと、とても良かったです。



象地域設計のみなさん



LIGHTHOUSEDESIGN のみなさん



東京支部のみなさん



懇親会には 58 名が参加・乾杯は大槻博司さん



最後にみんなで

今回のセミナーでは、歴史的な建築や風景を「守る」だけでなく、地域の人々がその価値を発見し、使い、つなぎ、未来へ育てていく多様な実践を学ぶことができました。一方で、再開発によって失われる住環境や地域コミュニティ、将来のマンションの維持・解体など、これからの都市が抱える課題も浮き彫りになりました。

2 日間では語り尽くせないほど多彩な内容でした。

埼玉各地の実践から学んだ「市民がまちを知ること」「地域に根を下ろして活動すること」「小さな取り組みをつなげていくこと」「行政と市民がともに考えること」を、これからの新建の活動にも生かしていきたいと思います。



エクスカーション（まち歩き）

二日目には、4 つのコースに分かれて現地見学も行いました。中浦和・武蔵浦和、大宮駅東口・氷川神社参道・大宮公園・盆栽村、旧日光街道草加宿、川越旧織物市場・りそなコエドテラス・蔵造のまちを訪れ、それぞれの地域が持つ建築や歴史、まちづくりの取り組みを実際に体験しました。

報告は、次号の「ホワイエ」に掲載します。お楽しみに !!

公開市民フォーラム“地域共生型データセンター”の望ましいあり方を求めて

柳澤泰博

10月3日（土）13:20～17:00 立教大学池袋キャンパス 8号館で開かれました。

主催：都市型データセンターあり方検討会

共催：立教大学環境学部・立教大学共生社会研究センター

第一部では主催者の挨拶に引き続き、8地域のデータセンター（以降DC）建設地域の住民の報告がありました。（各地域：昭島、日野、小平、塩浜、千石、印西、柏、南砺）

それぞれに建設地環境、進捗状況、規模、など違いがありますが、多くは既存住居環境地区内でのDC建設の計画で、押しなべて住民の方々の突然の事態に対する大きな不安と困惑をもって、問題と課題が報告されました。

第二部ではパネル討論が行われ、多様な専門家からの意見と本質的な問題点の指摘などがありました。

基調報告：伊勢洋昭氏（事務局・日野市環境審議会市民委員）により行われました。

パネリスト：糸長浩司氏（元日本大学教授/都市農村計画・エコロジカルデザイン）、

内田聖子氏（アジア太平洋情報資料センターPARC 共同代表/ジャーナリスト）

下山憲治氏（早稲田大学教授/行政法学）

原科幸彦氏（横浜商科大学学長/環境計画学）

松尾豪氏（エネルギー経済社会研究所代表取締役/エネルギー産業論）

引き続きパネリストによる全体討論が行われました。

DC建設に関しては未だ統一的な本質議論がなされないまま、社会的には大きな問題となっています。例えばDCは多くの事例で建築基準法上の用途が「事務所その他」として申請がなされていますが、実態は工場・倉庫、に当たるであろうという指摘があります。またサーバーを冷却するための巨大な付属空調設備施設の問題、膨大に消費する電気エネルギーの問題、大量に貯蔵される化石燃料やリチウムイオン電気の問題など、行政も含めた早急で総合的な判断と体制づくりの対応が必要であろうと思いました。



第18回地方自治研究全国集会 in 広島に10月3日、4日で参加しました。

新建は1993年の第3回の愛知集会から組織的に参加しています。それまでも個人的に助言者などで参加していました。全国の住民団体、市民運動、研究団体などと自治労連が共同実行委員会として行なわれています。「住民と自治体労働者が地域の問題や地方自治について一緒に考える場」です。各地方・各地域でも同じような形で取り組まれているところもあります。ぜひ地域版にもご参加下さい。全国の実行委員会で一番高齢者（多分）なので開会の挨拶をしました。「建築とまちづくりセミナーin 埼玉」と日程が重なりましたので、新建からの参加は助言者として推薦し、担当していただいた大阪支部の中山徹さんと私の2人でした。次からは日程がぶつからないように早く決めて、多くの会員が参加できるように調整してほしいです。

集会全体では文化行事のマリンバ演奏、記念講演、特別報告、基調フォーラム、青年企画が1日目で、2日目は15のテーマ別分科会、1つの講座、2つの現地分科会（フィールドワーク）でした。

記念講演は室蘭工業大学教授（憲法学）の清末愛砂さんが「日本国憲法の力を実感するー私たちの生活と小さな幸せを守るツール」というお話でした。パレスチナやアフガニスタン現地のことや北海道の矢臼別自衛隊演習場での平和運動などの実践も豊かに組み込まれていました。

2日目の新建が担当をした分科会のテーマは「公共インフラと住環境・まちづくり」で「政府がすすめるコンパクトシティ、広域連合と対峙する、住民の権利を守り住み続けられるまちづくりの視点、公共交通、上下水道、都市計画、住宅問題について、事例を交えて議論をします」というものでした。



助言者報告は奈良女子大学名誉教授で自治体問題研究所理事長の中山徹さんです。「人口減少問題」、「新設か維持管理か」、「広域化か狭域化か」、「トップダウン型か参加型か」、という現在地域で考えなければならない問題を提起されました。

予定された3つの要請レポートがありました。「①上下水道の問題（施設老朽化・民営化の動向）」「②公共交通（広島県のJR芸備線廃線問題）地域交通の維持存続について」「③大都会・岡山の都市交通とまちづくり」でした。

私の方では持ち込みレポートなのでほんの短時間で「広島市営住宅基町高層アパートでのコミュニティ再生活動」を、広島市役所住宅部門、中区役所地域にぎわい担当、現地の「基町プロジェクト」を尋ねてヒアリングをしたという報告と現状について報告しました。

引き続き全国組織として自治研活動に各支部も協力をしていくことが必要と思いました。

「トラム好きなので」

広島駅は JR から「ヒロデン」への連絡がスムーズでした。昨年完成したらしい改修工事で

すが見事でした。優れたプランだと思います。案内所で「市役所に行きたい」「①番に乗れば良いです」「ホームはどこですか」「どこでも①番に乗れば行けます。」

前から見たかったのですが、三種類くらいの路面電車が走っています。

古い1両と新しい1.5両分、2両分の車両が乗り換え自由のチケットもあるので、心配をしましたが、パスモで使えました。ワンマンではなく運転手と車掌がいました。道路の広さの割には停留場の幅が狭いので、停留場に乘れない人もいます。

広島は通った幹線路の道路幅は広いので停留場も広げれば良いと思いました。停留所や自動車車線の数「なにか広さを持て余している」感じがしました。市街地を抜けたら郊外型としても使えるLRTならもっと良いと思いながら3日間を過ごしました。



「基町団地も好きなので」

広島に来ると毎回、訪問しています。

今回は。前泊をして「基町団地『広島市営住宅基町高層アパート』」に行きました。

今から考えると巨大すぎるような気もするのですが、「その時代の広島にはこれが必要だったのだ」といつも思っています。

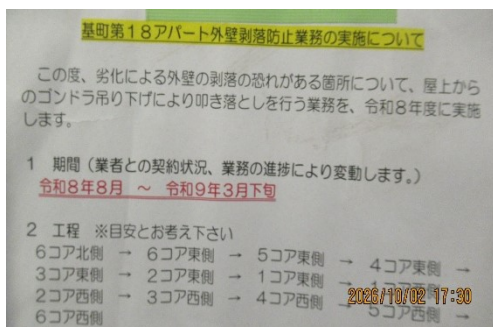
古くなった公営住宅をどうするかは全国で悩んでいます。

維持管理にお金をかけなければなりません。住みたいと思うためには適切な維持管理が必要です。全国の公営住宅で古くて困っている事態を解決するヒントになればと見てきました。

エレベーター周辺のブロック17の自治会があります。そのうちの「6コア自治会(町会)」をつくっていて20代の女性が自治会長になり、様々な形、アートや学術分野とも連携をして暮らしを活性しているということが「住まいのまちなみコンクール」で入賞をしました。

学生が公営住宅に入れるのかと疑問をもちましたが、広島市の「基町地区の活性化を支援する若年世帯・Uターン世帯・地域貢献世帯」枠でした。複数の学生が一戸に住むことなども可能なようです。

様々な箇所で補修工事をしているのを感じていますが、もう少しお金をかけて丁寧な管理が必要という感じを受けました。他の公営住宅の活性化につながれば幸いです。



NNAカンパサール 青い棚田に溶けこむ露天 ハノイから
車で行ける温泉郷 2026 年 6 月 26 日 (前回の続き)

【連載】アジア温泉旅 第5回絶景温泉探検家 鈴木

浩大

チャムタウの宿では、レセプション棟から緩やかな坂を少し下った場所にコテージが並んでいました。

★コテージの外観。一部屋ごとに独立し



ている(筆者提供) ★今回宿泊した部屋。バルコニーの手前に浴槽がある(筆者提供)

客室は 35 平方メートル(約 20 畳)のワンルームで、写真の手前側にトイレとシャワーブースがあります。大きなダブルベッドの向こうには白いバスタブが一つ。窓外の森を眺めながら入浴できる造りで、シャワーも付いています。白い石を敷き詰めたエリアの下に排水口があるのですが、シャワーヘッドの向きに気をつけないと、湯が飛び散って部屋が水浸しになります。



★浴槽周りの白い石の下に排水口がある(筆者提供)バルコニーからの眺め(筆者提供)

アジアで素朴な温泉コテージに泊まる際の注意点をまとめてみます。同行者から「自然の中で泊まりたい」と聞いていたのに、後になって文句を



言われたという場合の原因はおおむね次のようなものです。

① 設備はピンキリ

世界の有数のリゾートエリアにあるぜいたくなコテージを想像

してはいけません。小規模な宿の場合、外装はシンプルですし、室内も豪華とはいえません。一般に防音性能は低いので、近くの客室からの音や声が筒抜けです。

コテージの種類が数タイプある場合は、部屋によってピンキリなので、写真や口コミを参考に泊まる部屋を選んだ方がよいでしょう。ちなみに筆者が宿泊した部屋はオフピーク期の朝食付き料金が 7000 円程度(ホテル棟なら 4000 円程度)と安かったのですが、とても快適でした。



② 虫が多い

大自然の中にあるわけですから、当然のことながら虫がたくさんいます。日中に窓やドアを開けっぱなしにしていたら、夜は大変なことになります。室内に蚊取り線香や殺虫剤はあるものの、虫が極端に嫌いな人にはお勧めできません。

③ 便利ではない

部屋にテレビはありませんが、だいたいワイファイは使えます。レストランや温泉プールには、その都度歩いて



移動する必要があるのでもちよっと手間がかかります。雨が降ると面倒ですし、夜の歩道は日本に比べてかなり暗いです。年をとると暗い場所が見えにくくなるので、筆者はかなり注意して歩くようにしています。

★路傍に明かりはあるものの夜はほぼ真っ暗になる(筆者提供)



④ 食事の場所が限られる

日本では一泊二食付きの温泉宿が多いですが、海外では素泊まりか朝食のみという宿が大半です。町中の温泉ホテルなら外出して食事を自由にとれますが、山の一軒宿の場合は車でもない限り宿で食事をとることになります。

★さまざまな人数の宿泊客に対応できるレストラン(筆者提供)

欧米人の利用が多い宿では英語のメニューがありますが、ない場合はスマホの翻訳機能を使って見当をつけます。町中の軽食堂より値段は張りますが、衛生面に気を使っている宿が多いので安心です。地域限定、季節限定の料理などを楽しみたいものです。

★ ベト

ナムの山の宿での食事例。(左上から時計回りに)ティラピアの姿煮、カエルとレモングラスの炒め物、アヒルのロースト、旬のタケノコと川魚のスープ(筆者提供)

ベトナムの山の宿での食事の例を写真で示しましたが、筆者はあえて変わった料理を頼んでいますので、ご心配なく。牛肉や豚肉の炒め物、野菜スープ、チャーハンなどごく一般的なメニューもあります。

★標高の高い地域はちょうど田植え前だった(筆者提供)

★日本では見られないよう大規模な棚田を目当てに旅する人も多い(筆者提供)

アジアの山中の自然あふれる宿で、のんびりと温泉に入りたい！ そんな人にはコテージ泊がよい思い出になると思います。

「ベトナムで温泉？」と思う方が多いと思いますが、ベトナムは魅力的な温泉の多い隠れた温泉大国です。ぜひ訪ねてみてください。



<アクセス>ハノイから車で5時間。施設に依頼すればハノイからの送迎車を手配できます。少人数では割高です。安く移動したい場合、ベトナム人が利用するのは寝台バス(昼間走るバスでも寝台になっている)ですが、旅慣れていないと利用しにくいでしょう。ベトナムには、日本人向けのツアー会社が多数ありますので、専用車の手配を依頼するのが一番です。

複数の温泉を訪ねたい、温泉以外の観光地も訪ねたい、地元のおいしい料理を食べたいという場合、日本語ガイド付きの専用車があれば安心です。泊りがけでの旅の場合は通常、ガイドやドライバーはその町の安い宿に泊まるため夜は別になりますが、よほど高価な宿でもない限り筆者は同じ宿に泊まって食事や酒を一緒に楽しむ

ことが多いです。 <ベストシーズン>ベトナム北部のベストシーズンは雨の少ない 10～5月といわれます。ただし、棚田を眺めたい場合には、水が引かれた田んぼに映る景色が美しい田植えの時期(4～5月)や、黄金色に染まる収穫期(8～9月)が人気です。

今回訪れたのは5月上旬でしたが、チャムタウの町では田植えが終わり、青々とした田んぼを眺められた一方、標高が 700 メートル高い南側の地区は、まだ田植え前でした。11～2 月の冬場に訪れると、収穫が終わった後の田んぼが広がるだけです。

『日本一住みやすいまち』をめざして

～東日本大震災から歩んだ、あおい地区の復興と現在～

日 時 : 2026 年 11 月 5 日 (木) 18:30～20:30 [18:10 開場]

会 場 : 千代田区万世橋区民館 8 階会議室 +オンライン
(東京都千代田区外神田 1-1-13) ※次頁に案内図があります

参 加 費 : 1,000 円 (会場参加・オンライン参加 共通)

※会場参加の方は当日受付にてお支払いください。

※オンライン参加の方には、お申込み後に決済方法をご案内いたします。

申込方法 : 参加申込用紙にご記入のうえ、E メールまたは FAX にて
お申込みください。

用紙のダウンロードは新建全国ホームページから

<https://nu-ae.com/261103ichimokukai/>

主催/共催 : [主催] NP0 都市住宅とまちづくり研究会 (としまち研)

[共催] 新建築家技術者集団 (新建) 災害復興支援会議

【趣旨・背景】

としまち研は、2011 年の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県東松島市で、約 580 世帯が集団移転した「あおい地区」の復興支援に 2015 年 3 月までかかりました。

としまち研の会員や応援していただいた関係者 40 名超のご協力を得ながら、地区のすぐ近くで民家を借りて住み込み、集団移転する住民代表の小野竹一さんが掲げる『日本一住みやすいまち』をスローガンとして、住民の皆さんと話し合いをしながら取り組みました。



小野 竹一 氏
あおい地区まちづくり整備協議会会長
現あおい地区会会長

その小野竹一さんが、「日本一住みやすいまち」はどのように進んでいるかをお話しくたさることになりました。昨秋、新建主催の「建築まちづくりセミナー in 仙台」で現地を訪れたご縁から、新建も共催です。熊本地震や能登半島地震など、大災害はいつどこで発生するかわかりませんが、前を向いて一生懸命取り組んできた小野竹一さんのお話や、各地の被災現場を知る登壇者のクロストークをぜひお聞きいただきたいと思います。

住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 象地域設計

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

WHY?

え？

広告主募集中です！

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728